



乾杯を
もっとおいしく。

NEWS RELEASE

サッポロビール株式会社

サッポロビール九州日田工場に 太陽光発電設備を導入

2024年7月から本格稼働開始し、CO₂排出量を年間約612t削減



サッポロビール（株）は、脱炭素社会の実現を目指した取り組みの一環として、7月から九州日田工場へPPAモデル（注1）による太陽光発電設備（注2）を導入しました。

自社拠点へのPPAモデルによる太陽光発電設備導入は、本年3月の価値創造フロンティア研究所（注3）に続く5例目となります。

九州日田工場の導入設備は、太陽光パネル1,922枚、総パネル面積は約4,965平方メートルで、設備稼働による年間発電量は約1,276MWh、CO₂排出量は年間約612t削減される見込みです。

九州日田工場ではこれまでノンフロン型ヒートポンプ給湯設備（注4）を採用するなど省エネ対策に取り組んできました。今回の再生可能エネルギーを用いることで、より一層のCO₂排出量削減を進めていきます。

サッポログループでは、グループ全体の環境への取り組み方として「サッポログループ環境基本方針」（注5）を制定し、「サッポログループ環境ビジョン2050」（注6）を策定して課題解決に取り組んでいます。

世界共通の喫緊の課題である「脱炭素社会の実現」は最重点課題のひとつに掲げており、その解決に向けた企業としての役割を強く認識し、SBT認証レベルでのCO₂排出削減目標に取り組むこととしています。（注7）

サッポログループは、サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもとに、サステナビリティ重点課題に対する目標達成に向けて取り組みを進め、「持続可能な社会の実現」と「グループの持続的な成長」の両立を目指します。

（注1）発電事業者が事業者の敷地内に太陽光発電設備を発電事業者の費用により設置し、発電された電気を事業者に供給するモデル。

（注2）太陽光発電設備の設置会社：東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

（注3）https://www.sapporobeer.jp/news_release/0000016626/

（注4）自然冷媒であるCO₂を冷媒とした給湯ヒートポンプ。

<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/environment/decarbonized/emission/>

（注5）<https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/environment/management/philosophy/>

（注6）https://www.sapporoholdings.jp/sustainability/environment/management/vision

（注7）<https://www.sapporoholdings.jp/news/dit/?id=9264>

以上